

<2004年シリーズ> すまい・まちづくりフォーラム関西21

木の文化で都市の再生は可能か

優れた伝統である「木の文化」の復権可能性を検証し、併せて21世紀の都市・市街地の再生方向を探る

●第13回 9月21日(火)

都市・市街地の歴史保全と

アメニティ再生にとっての木(造)の役割

刈谷勇雅 (文化庁文化財部建造物課課長)

木造建物による市街地再生の試みとその現代的可能性

藤本昌也 (建築家・現代計画研究所代表)

●第14回 10月5日(火)

木造の街の防災安全性は確保できるか

北後明彦 (神戸大学都市安全研究センター助教授)

老朽木造建物・住宅の耐震改修工事はなぜ進まないのか

塩崎賢明 (神戸大学工学部建設学科教授)

●第15回 10月19日(火)

古民家の再生を通して木の文化のデザイン性を考える

梶村 徹 (倉敷建築工房 梶村徹設計室所長)

景観法制定を契機とする

都市・市街地再生の可能性と木(造)の役割

西村幸夫 (東京大学大学院都市工学科教授)

本フォーラムは、日本建築士会継続能力開発(CPD)プログラムの認定(各回3単位)を受けています。

過去幾度かの震災や戦災の経験を通して、わが国では火災や地震に弱いとされる木造建築・住宅の「不燃化」と「耐震化」が至上命題とされてきました。大都市では非木造建築が主流となり、また各種法制度も非木造化を促進しています。

しかし最近では、日本のすまい・まちづくりにおける「木の文化」の復権への動きが注目されるようになりました。構造・材質・衛生・環境の面で木造建築・住宅の再評価が進み、また新たな可能性が切り開かれてきています。法制度の上でも、特区制度や建築条例の積極的活用によって都市・地域の特性にあわせた新しい展開例が生み出されてくるようになりました。

テーマにふさわしい第一級の講師を招いての企画です。ご参加いただきたくご案内します。

コーディネーター 広原盛明

時間 午後1時15分～5時00分
会場 梅田スカイビルウエスト22階
交通 JR大阪駅中央北口から徒歩10分
参加費 2000円(1回券、含資料代)
5000円(3回通し券)、学生半額
申込み FAX 0774-73-5701 または
メールでお知らせください。

(当日受付もあります。先着100名)

*詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.n-bunko.org/>

もくじ

新理事長あいさつ/すまい・まちづくりの「研究 ミュージアム・アーカイブス」	安藤元夫	2
講演会/エンド・ユーザーの視点からみた 公団住宅・ニュータウン	西川祐子	3
トピックス/北国の住様式研究	野口孝博	8
会員だより/WORK/LIFE — 融け合う環境できますか?	河井容子	11
西山先生と私/穏やかでやさしい暮らし	延藤安弘	12
個人記念館/工学院大学図書館「今和次郎 コレクション」の5年間	萩原正三	14

